

代 表 者
山本

行 政 視 察 報 告 書

令和8年2月2日

会派代表者 殿

呉市議会議員 山本 光宗  
呉市議会議員 光宗 等

次のとおり行政視察したので報告します。

1. 視察期日  
令和8年1月26日（月）、27日（火）、28日（水）

2. 調査項目

宮城県岩沼市「岩沼 AI 乗合バス」について

---

山形県天童市「天童市子育て未来館げんキッズ」について

---

3. 参加議員

山本議員、光宗議員（公務対応により2日目の天童市のみ参加）

## 宮城県 岩沼市

### ・調査項目

「岩沼 AI 乗合バス」について

### ・調査対応者

岩沼市市民経済部生活環境課 課長 丹野 隆信

岩沼市市民経済部生活環境課 係長 鈴木 勝太

### ・調査期日

令和 8 年 1 月 26 日（月）午後 2 時 30 分～午後 4 時

### ・岩沼市の概要[令和 7 年 12 月末時点]

人 口：42,777 人

世帯数：19,183 世帯

### ・調査目的

呉市においても持続可能な公共交通の構築は喫緊の課題となっている。特に島しょ部や高齢化比率の高い地域については、路線バス維持の見通しが厳しくなっており、移動手段の確保に向けた、あらゆる可能性を模索するため。

### ・調査内容

#### □岩沼市からの説明

#### ・事業の概要

人口減少や高齢化の進行に伴い、既存の路線バスの維持が困難となる中、AI を活用したオンデマンド型交通を導入している。この AI バスは、利用者がスマートフォンや電話で予約を行い、AI が需要に応じて最適な運行ルートを生成する仕組みで、定時・定路線ではなく「必要なときに、必要な場所へ」移動できる点が特徴。主に公共交通空白地帯や高齢者の移動手段確保を目的とし、通院・買い物・公共施設利用など、日常生活を支える移動手段となっている。

## ・導入の経緯

- 人口減少と高齢化の進行
- 運転手不足による路線バスの縮小・廃止
- 自家用車を利用できない高齢者の移動困難

などの課題が顕在化。従来の路線バスをそのまま維持することが財政的・人的に困難となる中、「持続可能な地域交通」を模索する手段として、ICT や AI を活用した新たな公共交通モデルの検討が進められ、本事業が導入された。

## ・成果と課題

### 成果

- **移動手段の確保**  
高齢者を中心に、通院や買い物の足として一定の利用実績を上げている。
- **運行の効率化**  
需要に応じた運行により、空車走行の削減やコスト抑制につながっている。
- **住民満足度の向上**  
自宅近くから乗車できる利便性が評価され、地域に根付いた交通手段となりつつある。

### 課題

- **利用者の IT リテラシー**  
スマートフォン操作が苦手な高齢者への配慮が必要であり、電話予約の継続や支援体制が欠かせない。
- **財政的持続性**  
利用者数の増加だけで完全な自立運営は難しく、一定の公費負担が前提となっている

## □質疑応答

(質問) 利用者の予約方法と課題を教えてください。

(回答) 予約は1週間前から可能となっている。予約の方法は電話の他、無料通信アプリラインでは24時間予約可能になっている。

### □呉市での展開の可能性

呉市においても、中山間地・島しょ部を含む地形的特性、高齢化率の上昇、路線バス・タクシーの担い手不足といった点で、岩沼市と共通する課題を抱えている。特に、既存の公共交通の維持が困難な地域においては、AIバスは補完的交通手段として高い適合性があると考えられる。一方で、地形の起伏、道路幅員、島しょ部特有の移動ニーズなど、呉市特有の条件を踏まえた運行エリア設定や車両選定が不可欠である。呉市での導入については、モデル地区での実証運行を行った上で、利用状況や費用対効果を検証しながら段階的な導入が望ましいと考える。

### 山形県 天童市

#### ・調査項目

「天童市子育て未来館げんキッズ」について

#### ・調査対応者

天童市健康福祉部子育て支援課 課長 明石 淳一

天童市子育て未来館げんキッズ 支配人 二瓶 浩佳

#### ・調査期日

令和8年1月27日(火) 午後2時30分～午後4時

#### ・天童市の概要[令和7年12月末時点]

人口：59,645人

世帯数：23,209世帯

#### ・調査目的

呉市においては、親子で交流するためのスペースや子育てに関する各種相談など、子育てを楽しみ、地域で子育てを支えていくための様々な要素を集約した、子育て支援拠点施設(ファミリー・サポート・センター事業も併設)、「くれくれぱ」、「ひろひろぱ」が整備されている。現在、開発が進む呉駅前の複合型ビルに「くれくれ

ば」が移設する予定がある等、呉市での今後の子育て関連施設等のあり方や展開の参考にする。

#### ・調査内容

#### □天童市からの説明

##### ・事業の概要

天童市子育て未来館「げんキッズ」は、子育て世代を中心に、乳幼児から小学生までの子どもが安心して遊び、学び、交流できる屋内型子育て支援施設である。天候に左右されず利用できる大型遊具や知育スペースを備え、子どもの健全な成長を支援するとともに、保護者同士の交流や子育て相談の場としても機能している。施設内には年齢別に配慮された遊び空間が整備されており、安全性を最優先に設計されている。また、専門スタッフの常駐により、遊びの見守りだけでなく、子育てに関する不安や悩みへの対応も行われている点が大きな特徴である。

##### ・導入の経緯

天童市では、少子化の進行や若年世代の定住促進が大きな課題となっていた。特に、子育て期における「安心して子どもを遊ばせられる場所が少ない」、「親子で気軽に集える場が不足している」といった市民の声を背景に、子育て支援の拠点整備が求められていた。こうした状況を踏まえ、子育て環境の充実を通じた定住人口の確保、子育て世代の満足度向上、さらには地域のにぎわい創出を目的として、「げんキッズ」が整備された。遊戯施設ではなく、「子育て支援」「交流」「相談」を一体的に提供する拠点として構想された。

##### ・成果と課題

###### 成果

- ・ 天候に左右されない屋内施設として、年間を通じて安定した利用が確保されている
- ・ 子どもの遊び場の確保により、保護者の心理的負担の軽減につながっている
- ・ 保護者同士の交流が生まれ、孤立しがちな子育て環境の改善に寄与している
- ・ 市外からの利用者も一定数あり、交流人口の増加や地域イメージ向上に貢献している

## 課題

- 休日や長期休暇中は利用が集中し、混雑への対応が課題となっている
- 運営コスト（人件費・維持管理費）の継続的な確保が必要

## □質疑応答

（質問）市内在住者以外の施設利用は可能ですか。

（回答）利用は市内在住者に限定しておらず、市外の利用者にも利用頂いており、交流人口の増加にも寄与している。

## □呉市での展開の可能性

呉市においても、少子化の進行や若年・子育て世代の定住促進は喫緊の課題であり、天童市の事例は大いに参考となる。特に、雨天時や猛暑時でも安心して子どもを遊ばせることができる屋内型施設へのニーズは高いと考えられる。呉市での設置を検討する場合は、既存公共施設の再活用（空き公共施設・複合施設化）子育て支援機能と地域交流機能の一体化、運営における官民連携や指定管理者制度の活用といった視点が重要である。



以上